

月刊 DRF 2016 年 10 月号 No.80 October, 2016 掲載

今そこにあるオープンアクセス Clear and present Open Access

第 20 回 今月の馬鹿げた特許？

Stupid Patent of the Month?

首都大学東京学術情報基盤センター 栗山正光

8 月末、エルゼビア社が取得したオンライン・ピアレビューに関する[特許](#)が物議をかもしている。『[カレントアウェアネス](#)』も伝えているように、発表の翌日には米国・電子フロンティア財団(EFF)の[ブログ](#)で「今月の馬鹿げた特許(Stupid Patent of the Month)」(あるいは「月間愚劣特許賞」とでも訳した方がいいかもしれない)と酷評され、『クロニクル・オブ・ハイアー・エデュケーション』誌にもこの特許がオープンソース([ケヴィン・ホーキング](#)も指摘するようにオープンアクセス(OA)の間違いだろう)擁護者に恐怖を与えているという[記事](#)が掲載された。[パテント・トロール](#)という言葉を使った[ブログ](#)もある。

何が問題なのか大雑把に言うと、今回の特許は既知の方法に与えられており、エルゼビア社はこれを盾に他社(OA 出版社に限らない)を訴えることができってしまうということだろう。エルゼビア社のトム・レラーは[ツイッター](#)で、「心配するには及ばない。単にわが社独自のウォーターフォール(滝)・システムがコピーされるのを防いだけ」と発言している。このウォーターフォール・システムというのは投稿論文が掲載拒否になったら自動的に別の雑誌に投稿される(もちろん著者の意向によって)というものらしい。しかし、似たような仕組みはエルゼビア社が特許を申請した 2012 年 6 月以前にすでに「[カスケーディング\(階段状の滝\)ピアレビュー](#)」として知られていた。もしこの方式が特許ということだと、かねてから同様のシステムを運用しているシュプリンガー・ネイチャー社にさえ特許使用料を請求できることになってしまう(常識的にはあり得ない話だが)。

不思議なことに、この問題は GOAL、SCHOLCOMM あるいは [LIBLICENSE](#) といったメーリングリストでは話題にならなかった。議論が起きたのはオープン・スカラーシップ・イニシアティブ(OSI)というグループの[フォーラム](#)である。この特許のどこが新しいのかという疑問の声に対して、エルゼビア社のアリシア・ワイズが次のような回答を寄せている。オンライン・ピアレビューそのものではなく、わが社の先進的なシステムへの特許である。自社独自のソフトウェアに特許を申請するのはよくある話だと聞いている。

しかし、エルゼビア社の特許取得の狙いがどこにあるのか、疑惑は晴れない。マイク・テイラー(おそらく急進的な OA 論者としても知られる[古生物学者](#))は、同社が中小出版社に面倒な訴訟を仕掛けるのではないかと皮肉った。これに対し、フォーラムのモデレーターから警告が出され、他のメンバーからも生産的な議論をしようという声があがった。しかしテイラーは、オープンな学術研究に有害な動きがあるのに名誉毀損を恐れて自由に発言できないとしたら、このグループは何のためにあるのかと反発している。結局、議論は打ち切りになり、この特許に関する疑問は解明されないまま残った。

もちろん、[特許自体](#)は公開されていて誰でも読めるのだが、何が特許侵害に当たるのか判断するのは素人には難しいし、時間もかかる。もう少しわかりやすい説明がエルゼビア社からあってもいいと思うのは筆者だけだろうか。